

神奈川県金融経済概況（2015年7月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は、足もとでは年初対比で水準を落としている。輸出は、足もと減少に転じている。設備投資は、増加している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は、全体として改善している。個人消費は、底堅く推移している。この間、住宅投資は、改善している。公共投資は、足もとでは増加している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 足もとでは年初対比で水準を落としている。

- ・ 輸送機械は、外需向け部品が好調なもの、外需向けトラックの増勢が一服しているほか国内向け乗用車が低調に推移するなど、足もとでは弱めの動きとなっている。
- ・ 素材関連は、化粧品や鋼材などが弱めの動きとなっているものの、外需向けのプラスチック製品や合成ゴムが持ち直しており、全体としては持ち直しつつある。
- ・ 電気機械は、電子部品・デバイスが持ち直しつつあるものの、情報通信関係の設備投資需要が一服していることから、全体で見ると足もと減少している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、海外向け建機などで一部弱めの動きがみられるものの、工作機械などが引き続き堅調なことから、全体としては持ち直しつつある。

(2) 輸出： 足もと減少に転じている。

- ・ 自動車関連の増勢が一服しているほか、仕向地別にみると中国向けが伸び悩んでいることなどから、足もと減少に転じている。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 6月短観における、15年度の設備投資計画は、製造業・非製造業ともに業容拡大を企図した増投資や新拠点・新店舗の設置計画が一段と積み増されており、全産業ベースで大幅な増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善している。

- ・ 5月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.08倍と、前月の水準（1.07倍）を上回ったほか、4月の現金給与総額は前年比+3.7%となった。

(5) 個人消費： 底堅く推移している。

- ・ 百貨店売上高は、天候要因から衣料品販売に弱さがみられるものの、高額品や食料品販売が好調で、全体としては堅調に推移している。
- ・ スーパー売上高は、食料品を中心として堅調に推移している。
- ・ 家電販売額は、天候要因からエアコン等の季節家電が幾分弱めの動きとなっているものの、全体としては横ばい圏内で推移している。
- ・ 新車登録台数は、一部の新型車投入効果などは持続しているものの、軽自動車の集中的販促活動の反動等の影響が残っており、全体としては持ち直しが遅れている。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、一部に弱い動きもあるが、多くの地域で堅調に推移している。

(6) 住宅投資： 改善している。

- ・ 着工ベースで見ると、貸家は足もと増勢が鈍化しているものの、前年比ではなお増加しているほか、分譲マンションも引き続き増加するなど、改善している。

(7) 公共投資： 足もとでは増加している。

- ・ 15/4-6月の公共工事請負額(2,116億円)は、99/7-9月以来の高水準となった。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関(銀行、信金)の貸出をみると、中小企業向けに拡がりが見られるほか、不動産・住宅関連向けの伸びが続いており、引き続き増加している(貸出金末残前年比：4月+1.8%→5月+1.7%)。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している(月末貸出約定平均金利前月差：4月▲0.011%P→5月▲0.006%P)。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関(銀行、信金)の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金で安定した伸びが持続しているほか、法人預金も伸びていることから、引き続き増加している(実質預金末残前年比：4月+3.0%→5月+3.6%)。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。